

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			東ユニット 実践状況	西ユニット 実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングやケースカンファレンスなど、その度理念に沿った対応や支援が出来るよう話し合いを行っている。	ミーティングやケースカンファレンスでは、その度理念に沿った対応、理念に基づいた支援が出来るように話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの影響で中止をしているが、日常的に散歩や買い物、ドライブなど出掛ける事が多く、近隣の人達やスーパーの店員と挨拶を交わしたり、会話をする機会が多い。毎年祭りなどの休憩場所として 地域交流に努めている。	現在はコロナの影響で中止をしているが、日常的に散歩や買い物、近隣のお寺へ出掛ける事が多く、近隣の人達やスーパーの店員等と挨拶を交わしたり、会話をする機会が多い。祭りの子供神輿の休憩所として、地域と交流出来るように働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の実体験を基にした寸劇を含めた認知症サポーター養成講座の開催。地域のコミュニティーの場を目指し、平成27年9月より月に1回認知症カフェ(藍カフェ)を開催している。(現在は中止中)	事業所内のキヤフハンメイトや職員が、家族の実体験を基にした寸劇を含めた認知症サポーター養成講座の開催。地域のコミュニティーの場を目指し、平成27年9月より月に1回認知症カフェ(藍カフェ)を開催している。(現在は中止中)	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、職員体制や研修実施状況・活動などの報告を行い意見を頂けるようにしている。会議参加返答用紙に意見や要望を記入する欄を設け、頂いた内容を報告し、議題として取り上げ意見を活かした取り組みを行えるように努めている。現在はコロナの影響で書面会議とし、ご	運営推進会議では、職員体制や研修実施状況・活動などの報告を行い意見を頂けるようにしている。会議参加返答用紙に意見や要望を記入する欄を設け、頂いた内容を報告し、議題として取り上げ意見を活かした取り組みを行えるように努めている。現在はコロナの影響で書面会議とし、ご	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月藍住町健康推進課へ訪問し入退居状況報告書の提出を行っている。また、運営推進会議に市町村担当者の参加があり、運営やサービスの課題などを共に検討できるように努めている。	毎月藍住町健康推進課へ訪問し入退居状況報告書の提出を行っている。また、運営推進会議に市町村担当者の参加があり、運営やサービスの課題などを共に検討できるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険等を察知した場合も、声掛けを行う 傾聴するなど 行動を止めるのではなく 安全面に配慮して自由な暮らしを支える様に努めている。毎月身体拘束廃止委員会を開催している。	危険等を察知した場合も、行動を止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、行動をすすめるなどを行い、安全面に配慮して自由な暮らしを支える様に努めている。毎月身体拘束廃止委員会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加し高齢者虐待防止に関する理解を深め防止に向けた取り組みを行っている。また、毎月のミーティングやケースカンファレンスの支援検討時でも常に虐待防止を念頭に置き話し合っている。	勉強会や研修に参加し高齢者虐待防止に関する理解を深め防止に向けた取り組みを行っている。また、毎月のミーティングやケースカンファレンスの支援検討時でも常に虐待防止を念頭に置き話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			東ユニット 実践状況	西ユニット 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修に参加し職員の理解を深めるようにしている。また、グループ在籍の社会福祉士等に相談出来る体制がある。	勉強会や研修に参加し職員の理解を深めるようにしている。また、グループ在籍の社会福祉士等に相談出来る体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に本人、家族等に来所していただき、契約書、重要説明書を時間をかけ説明している。特に生活とリスクは裏表一体である旨、例としては買い物時の事故や調理時の怪我等ホームの方針も十分に説明している。事前指定書も記入していただいている。	事前に本人、家族等に来所していただき、契約書、重要説明書を時間をかけ説明している。特に生活とリスクは裏表一体である旨、例としては買い物時の事故や調理時の怪我等ホームの方針も十分に説明している。事前指定書も記入していただいている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に相談、苦情を気軽に言ってもらえる様に、話しやすい雰囲気作りや、日々の関わりの中で言葉や態度での訴えの把握に努め、利用者本位の運営を心掛けている。家族、利用者からの不安や要望はその都度職員で話し合いを行い支援に活かしている。また、申し送りや観察記録に記載しミーティングやケースカンファレンス時参考にし検討している。	常に相談、苦情を気軽に言ってもらえる様に、話しやすい雰囲気作りや、日々の関わりの中で言葉や態度での訴えの把握に努め、利用者本位の運営を心掛けている。家族、利用者からの不安や要望はその都度職員で話し合いを行い支援に活かしている。また、申し送りや観察記録に記載しミーティングやケースカンファレンス時参考にし検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図る様に心掛けている。代表者は定期的に訪問し管理者や職員と意見交換を行い運営への反映に努めている。又提案制度を作り、職員が意見を出しやすい環境を作っている。	日頃からコミュニケーションを図る様に心掛けている。代表者は定期的に訪問し管理者や職員と意見交換を行い運営への反映に努めている。又提案制度を作り、職員が意見を出しやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上半期、下半期に分け職務遂行の為の「基本能力」「介護技術」の評価を作成し、向上心を養い上司が実践を把握出来る様にしている。勉強会への参加を積極的に行い、スキルアップ出来る体制を作っている。又、学会発表等の参加も行っている。	上半期、下半期に分け職務遂行の為の「基本能力」「介護技術」の評価を作成し、向上心を養い上司が実践を把握出来る様にしている。勉強会への参加を積極的に行い、スキルアップ出来る体制を作っている。又、学会発表等の参加も行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、事業所内外の研修会・勉強会や認知症実践者研修など、積極的に参加している。また、グループ内で開催している介護実務者研修支援(勤務調整・受講料貸付)や介護福祉士、介護支援専門員受験への情報提供や勉強会を行うなどの資格取得への支援も行っている。	法人、事業所内外の研修会・勉強会や認知症実践者研修など、積極的に参加している。また、グループ内で開催している介護実務者研修支援(勤務調整・受講料貸付)や介護福祉士、介護支援専門員受験への情報提供や勉強会を行うなどの資格取得への支援も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修への積極的参加や日本認知症グループホーム協会徳島県支部への加入等で、他施設の来訪を受け入れたり、他事業所職員との交流機会を作っている。(現在はコロナで自粛中)	認知症実践者研修への積極的参加や日本認知症グループホーム協会徳島県支部への加入等で、他施設の来訪を受け入れたり、他事業所職員との交流機会を作っている。(現在はコロナで自粛中)	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			東ユニット 実践状況	西ユニット 実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者や家族を訪問し、生活状況の把握を務めると同時に、少しでも馴染みの関係を作れるようにしている。他サービスを利用中の場合は利用時の様子を見せていただいている。	事前に利用者や家族を訪問し、生活状況の把握を務めると同時に、少しでも馴染みの関係を作れるようにしている。他サービスを利用中の場合は利用時の様子を見せていただいている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接等で家族様がどのようなことで困ったり、不安だと思うことを伺い、ホームではどのような対応ができるか話し合いの場をもっている。本人様の希望同様、家族様の希望も十分に伺い望ましいケアについて話し合っている。	事前の面接等で家族様がどのようなことで困ったり、不安だと思うことを伺い、ホームではどのような対応ができるか話し合いの場をもっている。本人様の希望同様、家族様の希望も十分に伺い望ましいケアについて話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談から直ぐに利用に直結するのではなく、本人様や家族状況を把握し、他のサービスも視野に入れたうえで、最善の方法を検討するように努めている。早急な対応が必要な場合には、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。	相談から直ぐに利用に直結するのではなく、本人様や家族状況を把握し、他のサービスも視野に入れたうえで、最善の方法を検討するように努めている。早急な対応が必要な場合には、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の思い、不安、喜び等を常に知り続けるように努め、分かち合い、共に支えあう関係づくりをしている。人生の大先輩に職員は教えていただく事も多く、利用者様に励まされ、常に感謝の気持ちを忘れることなく支援している。	本人様の思い、不安、喜び等を常に知り続けるように努め、分かち合い、共に支えあう関係づくりをしている。人生の大先輩に職員は教えていただく事も多く、利用者様に励まされ、常に感謝の気持ちを忘れることなく支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を行う際は事前連絡、実施後はどういった状況であったかを電話連絡にて行っている。毎月郵送している「ありのまま通信」や3ヶ月に1回作成する生活フォトをお渡することや1か月に1回は電話連絡にて近況報告をし情報の共有に努めている。	行事を行う際は事前連絡、実施後はどういった状況であったかを電話連絡にて行っている。毎月郵送している「ありのまま通信」や3ヶ月に1回作成する生活フォトをお渡することや1か月に1回は電話連絡にて近況報告をし情報の共有に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナの影響で面会に制限はあるが可能となっている。通常はいつでも面会にきていただくことができ、また何かあればすぐに電話連絡をし、関係が途切れないよう支援している。	現在はコロナの影響で面会に制限はあるが可能となっている。通常はいつでも面会にきていただくことができ、また何かあればすぐに電話連絡をし、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係も常に気にかけて、職員が仲介して会話を広げることもある。トラブル等があった場合、何気なく職員が間に入り利用者同士の関係がより良いものになるよう努めている。ミーティングでも取り上げ話し合いケアに繋げている。	利用者様同士の関係も常に気にかけて、職員が仲介して会話を広げることもある。トラブル等があった場合、何気なく職員が間に入り利用者同士の関係がより良いものになるよう努めている。ミーティングでも取り上げ話し合いケアに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			東ユニット 実践状況	西ユニット 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、コロナの影響で家族の方と交流する場の開催は中止しているが、通常は開催している認知症カフェの案内をするなど、利用が終了しても気軽に立ち寄っていただけるよう心がけている。	現在、コロナの影響で家族の方と交流する場の開催は中止しているが、通常は開催している認知症カフェの案内をするなど、利用が終了しても気軽に立ち寄っていただけるよう心がけている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の発せられる言葉や表情、行動から思いや意向を把握するよう努めたり。利用者だけでなくご家族にも面会時や電話で意向等をお聞きし情報を得るようにしている。また、職員同士で情報交換を行い、希望、意向を確認するようにしている。	利用者の発せられる言葉や表情、行動から思いや意向を把握するよう努めたり。利用者だけでなくご家族にも面会時や電話で意向等をお聞きし情報を得るようにしている。また、職員同士で情報交換を行い、希望、意向を確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を作成し職員が把握できるようにしている。また、日々の関りの中で利用者が話されていることや以前利用されていた事業所からの情報、家族との電話での情報をお聞きし把握するようにしている。	アセスメント表を作成し職員が把握できるようにしている。また、日々の関りの中で利用者が話されていることや以前利用されていた事業所からの情報、家族との電話での情報をお聞きし把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で話し合い情報を共有し、各利用者日々の過ごし方、生活のリズム、心身の状況を把握、理解すると共に一人ひとりのできる事、持っている力に注目しそれを活かせるように支援している。	職員間で話し合い情報を共有し、各利用者日々の過ごし方、生活のリズム、心身の状況を把握、理解すると共に一人ひとりのできる事、持っている力に注目しそれを活かせるように支援している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で思いや意見をくみ取り、家族にも意向をお聞きし反映させるように努めている。会議やケースカンファレンス、各ケア担当者が中心で行うモニタリングなどで、心身状況の変化に合わせた支援について、意見交換、見直しを行い介護計画	日々の関わりの中で思いや意見をくみ取り、家族にも意向をお聞きし反映させるように努めている。会議やケースカンファレンス、各ケア担当者が中心で行うモニタリングなどで、心身状況の変化に合わせた支援について、意見交換、見直しを行い介護計画	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の個別ファイルがあり、日常生活の様子や食事、水分量、身体状況等が記録、保存されている。申し送りノート等を活用し支援に必要な情報の共有、伝達をしている。また、必要に応じて口頭でも伝達し統一したケアができるよう努めている。	各利用者の個別ファイルがあり、日常生活の様子や食事、水分量、身体状況等が記録、保存されている。申し送りノート等を活用し支援に必要な情報の共有、伝達をしている。また、必要に応じて口頭でも伝達し統一したケアができるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士と連携し必要に応じ相談できる体制を整えている。特に理学療法士は月1回のユニットMTに参加し、生活機能の向上を目標とした計画書作成に協力してもらっている。	法人内の医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士と連携し必要に応じ相談できる体制を整えている。特に理学療法士は月1回のユニットMTに参加し、生活機能の向上を目標とした計画書作成に協力してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			東ユニット 実践状況	西ユニット 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は運営推進会議への民生委員の参加や近所のスーパーへの買い物や行事のボランティアの協力、地域行事の参加など、地域資源を活用できるよう努めていた。	コロナ前は運営推進会議への民生委員の参加や近所のスーパーへの買い物や行事のボランティアの協力、地域行事の参加など、地域資源を活用できるよう努めていた。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医と共、皮膚科や眼科等の専門医への受診、通院支援も職員が代行し、本人、家族への希望に適宜対応している。又必要に応じ訪問診療で適切な医療が受けられるように支援している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医と共、皮膚科や眼科等の専門医への受診、通院支援も職員が代行し、本人、家族への希望に適宜対応している。又必要に応じ訪問診療で適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護ステーションの看護師の訪問があり、少しの気付きや戸惑いなどにも24時間いつでも相談や支援が受けられるように体制を整えている。また緊急時にも対応してもらえる協力医療機関があり、連携を密にとれる体制を確保している。	定期的に訪問看護ステーションの看護師の訪問があり、少しの気付きや戸惑いなどにも24時間いつでも相談や支援が受けられるように体制を整えている。また緊急時にも対応してもらえる協力医療機関があり、連携を密にとれる体制を確保している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が見舞ったり、家族と共に医師や看護師へ利用者本人に関する情報提供をしっかりと行い、入院によるダメージを極力防ぐように支援している。事業所内での対応可能な段階で早期退院ができるようアプローチしている。	入院時は職員が見舞ったり、家族と共に医師や看護師へ利用者本人に関する情報提供をしっかりと行い、入院によるダメージを極力防ぐように支援している。事業所内での対応可能な段階で早期退院ができるようアプローチしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応の方針を定め、家族、医師、看護師、職員を交え話し合いを行っている。本人または家族には事前指定書を書いてもらっている。又、急変時やケアでの不安要素などを職員間で話し合い家族や医療機関との連携をとり支援している。	終末期に対する対応の方針を定め、家族、医師、看護師、職員を交え話し合いを行っている。本人または家族には事前指定書を書いてもらっている。又、急変時やケアでの不安要素などを職員間で話し合い、家族や医療機関との連携をとり支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、マニュアルを作成し勉強会を定期的に行っている。又、毎日隣接施設当直者と利用状況、利用者の状態などの申し送りを行い 夜間急変時の応援態勢を作っている。	急変時や事故発生時に備えて、マニュアルを作成し勉強会を定期的に行っている。又、毎日隣接施設当直者と利用状況、利用者の状態などの申し送りを行い 夜間急変時の応援態勢を作っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月災害伝言ダイヤルを使い、災害が起きた時に関連施設との協力が出来る訓練をしている。全職員がすだち君メールに登録し、情報の共有が出来るようにしている。また毎月テーマを決め災害訓練を実施、年2回日中と夜間を設定し、利用者も参加し、火災通	毎月災害伝言ダイヤルを使い、災害が起きた時に関連施設との協力が出来る訓練をしている。全職員がすだち君メールに登録し、情報の共有が出来るようにしている。また毎月テーマを決め災害訓練を実施、年2回日中と夜間を設定し、利用者も参加し、火災通	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			東ユニット 実践状況	西ユニット 実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様は人生の大先輩であり、ひとりひとりの生活歴や性格等をコミュニケーションの中から引き出し知ること、人生観を大事にして、誇りやプライバシーを損ねるような言動は慎むようにしている。	利用者様は人生の大先輩であり、ひとりひとりの生活歴や性格等をコミュニケーションの中から引き出し知ること、人生観を大事にして、誇りやプライバシーを損ねるような言動は慎むようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の意思を言葉や態度から知ろう・分かるう・知り続けようという考えで支援している。献立を決める時や飲みたい物を決める時等、選択肢を提案しています。	常に利用者の意思を言葉や態度から知ろう・分かるう・知り続けようという考えで支援している。献立を決める時や飲みたい物を決める時等、選択肢を提案しています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活における全ての決まりがなく、利用者一人ひとりの状態や思いを考慮し、利用者様が生活の主役になれるようにしている。また、その日の本人様のペースを体調と共に考慮した暮らしを支援している。	日常生活における全ての決まりがなく、利用者一人ひとりの状態や思いを考慮し、利用者様が生活の主役になれるようにしている。また、その日の本人様のペースを体調と共に考慮した暮らしを支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや外出時の着替えは、支援が必要な場合は、さりげなく手伝いを行っている。しかし、自己決定の行いにくい利用者様には、選択肢の提案などを行い本人が少しでも自分好みで行えるよう支援している。	朝の着替えや外出時の着替えは、支援が必要な場合は、さりげなく手伝いを行っている。しかし、自己決定の行いにくい利用者様には、選択肢の提案などを行い本人が少しでも自分好みで行えるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響で利用者様と一緒に食事作り、準備等が出来なくなり10/1から外部委託により配食に変更になります。ご飯のみ親の家で提供になります。	コロナの影響で利用者様と一緒に食事作り、準備等が出来なくなり10/1から外部委託により配食に変更になります。ご飯のみ親の家で提供になります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有し、利用者一人ひとり好みの味や食べ物を取り入れたメニューで摂取量の確保に努めています。	食事や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有し、利用者一人ひとり好みの味や食べ物を取り入れたメニューで摂取量の確保に努めています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内の勉強会の参加や法人内の歯科衛生士に相談する事で口腔ケアの必要性を理解している。口腔状態の清潔が保てるように声かけをさせていただいております。	法人内の勉強会の参加や法人内の歯科衛生士に相談する事で口腔ケアの必要性を理解している。口腔状態の清潔が保てるように声かけをさせていただいております。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			東ユニット 実践状況	西ユニット 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの状態に合わせて見守り、部分介助、全介助を行っている。一人ひとりの能力や排泄パターンや習慣を活かして、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの状態に合わせて見守り、部分介助、全介助を行っている。一人ひとりの能力や排泄パターンや習慣を活かして、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排便の状態を把握し共有をしている。食材や献立を工夫したり水分量や体を動かす機会を増やし、自然排便ができるよう心掛けている。必要なら医療とも連携し内服薬等処方してもらい対応している。	排便チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排便の状態を把握し共有をしている。食材や献立を工夫したり水分量や体を動かす機会を増やし、自然排便ができるよう心掛けている。必要なら医療とも連携し内服薬等処方してもらい対応している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日の決まりが無く、体調や安全面を考慮しながら、いつでも好きな時間に入浴できるようにしている。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯等季節を感じていただくなど、楽しんで入浴して頂けるよう工夫している。	時間帯や曜日の決まりが無く、体調や安全面を考慮しながら、いつでも好きな時間に入浴できるようにしている。入浴剤や柚子湯、菖蒲湯等季節を感じていただくなど、楽しんで入浴して頂けるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に応じた支援を心掛けリビングや居室で自由に過ごして頂いている。休息が必要な時は職員から声掛けをし休んで頂くようにしている。また、昼夜逆転気味の方には、日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。	体調や希望に応じた支援を心掛けリビングや居室で自由に過ごして頂いている。休息が必要な時は職員から声掛けをし休んで頂くようにしている。また、昼夜逆転気味の方には、日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬している薬の効能・注意事項を理解し、服薬・食事量・排泄を総合的にチェックできる書類を使用し、状態の変化などを医師や看護師に訪問診療時に伝えている。服用時には日時と名前を声に出し確認し、誤薬・飲み忘れを防いでいる。	利用者の服薬している薬の効能・注意事項を理解し、服薬・食事量・排泄を総合的にチェックできる書類を使用し、状態の変化などを医師や看護師に訪問診療時に伝えている。服用時には日時と名前を声に出し確認し、誤薬・飲み忘れを防いでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者と一緒に行事について相談することや、四季を実感できる手芸やちぎり絵などにおいて、一人ひとりの力を引き出せるように自分で出来る事は自らの力でしてもらい、張り合いや喜びのある日々を過ごして頂ける支援をしている。	利用者と一緒に行事について相談することや、四季を実感できる手芸やちぎり絵などにおいて、一人ひとりの力を引き出せるように自分で出来る事は自らの力でしてもらい、張り合いや喜びのある日々を過ごして頂ける支援をしている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの感染対策として利用者の外出を控えている。施設に隣接した畑で野菜を育て、水やりや収穫のお手伝いをして頂いている。コロナ禍制限緩和後に出掛けられるよう利用者の会話の中で行きたい場所をリサーチしている。	コロナウィルスの感染対策として利用者の外出を控えている。施設に隣接した畑で野菜を育て、水やりや収穫のお手伝いをして頂いている。コロナ禍制限緩和後に出掛けられるよう利用者の会話の中で行きたい場所をリサーチしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			東ユニット 実践状況	西ユニット 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されている方もいるが、コロナ感染対策で買い物は控えている。預かり金を管理し、通常は本人が欲しい物があるときに使えるよう支援している。希望に応じて事前に家族さんに承諾を頂いておいて購入できるようにしている。	自身で管理されている方もいるが、コロナ感染対策で買い物は控えている。預かり金を管理し、通常は本人が欲しい物があるときに使えるよう支援している。希望に応じて事前に家族さんに承諾を頂いておいて購入できるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、いつでも電話を掛けられるようにしている。また、遠方に居る孫さんなどに住所をお聞きし定期的に手紙のやり取りが出来るように支援している。	利用者の希望により、いつでも電話を掛けられるようにしている。また、遠方に居る孫さんなどに住所をお聞きし定期的に手紙のやり取りが出来るように支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関の飾り付けは利用者と一緒に考え、作成し安心できる環境や、時期の代表的な食べ物やご家族からいただいた季節の野菜を使った献立などを取り入れることで季節感を感じられるようにしている。	リビングや玄関の飾り付けは利用者と一緒に考え、作成し安心できる環境や、時期の代表的な食べ物やご家族からいただいた季節の野菜を使った献立などを取り入れることで季節感を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時は席を決めず気の合う人同士が座れるようにしている。またリビングに和室があることやソファを置くことで1人でゆっくりできたり、少人数で話ができたりする場所も作っている。	食事の時は席を決めず気の合う人同士が座れるようにしている。またリビングに和室があることやソファを置くことで1人でゆっくりできたり、少人数で話ができたりする場所も作っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンと照明以外は、本人や家族と相談し使い慣れたタンスやベッドを使用できるようにしている。また、思い出の写真を置く、利用者が作成した作品を飾るなど、安心し居心地よく過ごせるように工夫している。	カーテンと照明以外は、本人や家族と相談し使い慣れたタンスやベッドを使用できるようにしている。また、思い出の写真を置く、利用者が作成した作品を飾るなど、安心し居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレ等に手すりを設置し自分の力で立位や歩行ができ、トイレの場所が分からない方へ感知式照明を利用しトイレの場所をわかりやすくするなど、安全かつできるだけ自立できるよう環境整備に努めている。	廊下・浴室・トイレ等に手すりを設置し自分の力で立位や歩行ができ、トイレの場所が分からない方へ感知式照明を利用しトイレの場所をわかりやすくするなど、安全かつできるだけ自立できるよう環境整備に努めている。	